

2018年5月18日

ユニバーサル志縁センター 2017年度事業報告

<総論>

2017年度は3つの事業に重点を置いて活動を行ってまいりました。

1つ目は首都圏若者サポートネットワークの発足と運営です。

2015年総会で子どもの貧困について議論を進めていくことが決定し、理事を中心に議論を進め、2016年度社会的養護下にある子の自立を考える研究会を発足し、4回研究会を開催しました。研究会の報告書に基づき、措置経験の有無にかかわらず、家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者が自立するのに必要な支援の仕組みを構築するため首都圏若者サポートネットワークを発足し、村木厚子氏に顧問、宮本みち子氏に運営委員長を迎え、運営委員会において2018年度に基金造成を進め支援を行っていくことは確認されました。子どもの貧困に関連する取り組みとしては、広がれ、子ども食堂の輪全国ツアーに実行委員として理事が参画し活動を推進しております。

2つめは自立相談支援事業評価ガイドラインの作成と検証作業です。

2015年度から厚生労働省社会福祉推進事業を活用し生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業評価ガイドラインの作成、検証を行ってまいりました。2017年度は自立相談支援事業の全事業者に対して評価ガイドラインに基づく調査を行い、3月20日にシンポジウムを開催しました。

3つ目はNPO、協同組合、労働組合、社会的企業など社会的経済セクターの協働です。

人材研修、講演、イベント等についてはコミュニティ・オーガナイズング関連事業を複数行うと共に、会員団体、理事団体が主催しているメーデー、東部労協福祉リーダー塾やワーカーズコープ全国よい仕事研究交流集会2017等にも積極的に参加してきました。NPO等の活動支援については、NPO事業サポートセンターから継続して行っている会計士・税理士の専門家の皆様と連携し事業を行いました。政策提言に関しましては、前述した厚生労働省社会福祉推進事業に加えて、東日本大震災や熊本地震を受けて杉戸市で開催している協働型災害訓練や世話団体として参加している東日本大震災支援全国ネットワークなどを通じて防災や復興支援活動への提言に関与しています。

最後に、今年度総会で決定した公益社団法人化に向けて作業を進めており、来年度前半には公益社団法人に移行することを目指していることも付け加えさせていただきます。

<当センターの事業内容>

1. 子どもの貧困への対応

1) 首都圏若者サポートネットワークの発足

①背景

2016年度実施した社会的養護下にある子の自立を考える研究会の報告を受け、18歳未満の中途退所者を含む「多様な旅立ちを支える」仕組みづくりを構築するため首都圏若者サポートネットワークを発足しました。

②運営委員会 構成（※敬称略 2018年3月7日時点）

顧問

村木厚子 前厚生労働事務次官

委員（◎委員長）

猪飼周平 一橋大学大学院社会学研究科、社会学部 教授

池田徹 一般社団法人ユニバーサル志縁センター 代表理事、社会福祉法人 生活クラブ風の村 理事長

伊藤由理子 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 常勤理事

大原岳夫 社会福祉法人浦和福祉会 さいたま市児童養護施設カルテット 施設長

岡本正 銀座パートナーズ法律事務所 弁護士

沖倉紅児 生活協同組合 パルシステム生活協同組合連合会 地域支援本部 総合福祉事業推進室 室長

兼間道子 NPO 法人 日本ケアシステム協会 会長

鴨崎貴泰 NPO 法人 日本ファンドレイジング協会 事務局長

菅原亜弥 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル 事務局長

高橋亜美 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所 ゆずりは 所長

恒松大輔 社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなろ荘 ホーム長

利根川徳 一般社団法人協同総合研究所 専務理事、日本労働者協同組合連合会 理事

生天目亮 NPO 法人日向ぼっこ 代表

花井圭子 労働者福祉中央協議会 事務局長

早川悟司 社会福祉法人子供の家 児童養護施設子供の家 施設長 社会福祉士

平野覚治 社会福祉法人ふきのとうの会 理事長、老人給食協会ふきのとう代表、全国老人給食協会専務理事

藤井康弘 元厚生労働省障害保健福祉部長、NPO 法人 東京養育家庭の会 理事

前川礼彦 自立援助ホーム湘南つばさの家ホーム長

町野弘明 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事・事務局長

宮本みち子◎ 放送大学 副学長

山本和代 日本労働組合総連合会 副事務局長

オブザーバー

風間与司治 東都生活協同組合 代表理事・専務理事

高橋陽子 公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長

半澤彰浩 生活クラブ生活協同組合・神奈川 専務理事

村上彰一 生活クラブ生活協同組合・東京 専務理事

芳川龍郎 公益財団法人日本財団 公益事業部国内事業開発チーム チームリーダー

渡邊たかし 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 代表理事 専務理事

佐甲学 社会福祉法人全国社会福祉協議会児童福祉部 部長

広報メディア編集長
加藤登紀子

事務局

一般社団法人ユニバーサル志縁センター（池本修悟、林大介、小山田織音）
一般社団法人くらしサポート・ウィズ（中根康子）
日本労働者協同組合連合会（扶蕪文重）

③活動報告

（運営委員会）

（ア）第1回委員会

日時 2017年7月19日（水）

会場 TKP 新橋汐留ビジネスセンター カンファレンスルーム 301（港区新橋4-24-8 2 東洋海事ビル）

内容 顧問、各委員自己紹介、アフターケア相談所 ゆずりは 高橋亜美さん基調講演、こども・若者未来基金（千葉）の現状報告 ほか



（イ）第2回委員会

日時 2017年10月27日（金）

会場 放送大学文教学習センター講義室5（東京都文京区大塚3-29-1）

内容 各ワーキンググループの報告、スケジュール確認 ほか



（ウ）第3回研究会

日時 2018年3月7日（水）

会場 放送大学文教学習センター講義室5（東京都文京区大塚3-29-1）

内容 NPO法人ちばこどもおうえんだん湯浅理事長による「こども・若者未来基金（千葉）」の現状報告、各WGの進捗報告 ほか



(ワーキンググループ)

第1回運営委員会に置いてワーキンググループを設置することとなり、以下のワーキンググループに分かれて活動を行っている。

(ア) 調査研究・政策提言ワーキンググループ活動報告

・大目的：社会保障体系の改変に資する政策提言を行う。

・調査研究・政策提言ワーキンググループの活動

助成3団体へのヒアリングを実施

- ① 日向ぼっこ (1月14日)
- ② ゆずりは (1月19日)
- ③ 湘南つばさの家 (2月14日)

・ワーキングの方向性について

現状を把握する

- ・優れた支援を聞いていくと、どういう穴から零れ落ちているのかは見えてくるし、零れ落ちてきた人に対してどういう手伝いをしたらよいか分かるようになる。
- ・優れた支援をしているということが、折り紙付きの人にお金をお預けしたい。
- ・どういう支援が良い支援なのか、ひな形を見つける。これまでヒアリングを行った3団体はプライバシーを配慮して、ケースも協力してくださる。
- ・ケースを理解することでこういう支援が大事だということを提言することは可能になる。
- ・最初はケースも経験値も少なく審査基準を作るのは難しいため優れた支援を行っている人たちが、審査体にはいって判断してもらう。

プロフェッショナルか地域か

- ・1つの団体が伴走型で寄り添って支援できる人数には限りがある。
- ・アフターケア事業者を強くするか、増やすか。
- ・サポートした人がひと段落した後、支援が薄くなっていく。そのプロセスの中で、その人のいる地域側の条件は何かも明らかにしたい。
- ・公的な支援、政策のところは拾って、提言していく。
- ・こういう支援を狙っているというのを前面に打ち出して、従来は、ちゃんとケアできていない、零れ落ちているところと言えたらよい。

ワーキングについて

- ・調査研究・政策提言ワーキンググループを分ける。
- ・伴走支援ワーキンググループを審査体の機能を持つ。(審査体とリサーチを分ける。)

審査体について

- ・行為に対してなのか、人に対してなのかは審査体が工夫する。
- ・ケースに着目し、団体を応援する。人を発掘する機能を持ってほしい。
- ・支援の雛形を作ってもらおう。
- ・制度が振り返ってこなかった、先駆的なところを応援する。
- ・すでに地域で活動している団体で支援者としての役割を担ってもらえる可能性のある団体はある。そういう団体を公募の仕組みを活用し表舞台に出てきてもらう。

(審査の方針案)

- ・最前線の課題に取り組もうとする活動を支援（どこがフロンティアなのか。）
- ・どこから応募があってもよい。（従来の支援からこぼれ落ちている人も対象。）
- ・この人を支えるために、お金がない。こういう支援をしたいんだということに助成する。これに使ってくださいという形でない。
- ・適切に支援をしてくださったことが、わかるような形になっていればよい。できるだけ、結果ではなく、プロセスで評価。

※必要性を納得して審査。

※どういう支援をしているかプロセスを報告してもらえれば見る人が見たらわかる。

(イ) 伴走支援ワーキンググループ活動報告

- ・生活クラブ共済連からの100万円を活用した伴走支援の実施

伴走支援 WG の委員を中心に個別支援計画の作成を依頼し、5つの計画が提案された。それらを受け以下の3団体に対して助成を実施。

- ① 日向ぼっこ：46万円
- ② ゆずりは：30万円
- ③ つばさの家：24万円

・支援内容：家賃支援、学費の支払い、アパート賃貸の初期費用、自立援助ホームにおけるアフターケア、食糧支援、宿泊費等

*助成先の3団体に対して運営委員会の調査研究・政策提言ワーキングメンバーがヒアリングを実施。

・WGのゴール：

- ① 個別支援計画募集要項策定（伴走者の負担にならないフォーマットづくり）
- ② 募集戦略の策定（個別支援計画の作成依頼をする伴走者の選び方）
- ③ 審査を行う。
- ④ 民間ベースで知られていないケース（事例）を増やしていく

・WGのプロセス：

- ① 伴走支援が可能な団体のリストアップ
- ② 事務局による伴走支援が可能な団体へ個別支援計画作成の依頼
- ③ 応募を希望する団体が個別支援計画の作成
- ④ 伴走支援WGで選考
- ⑤ 運営委員会へ報告

・現状の支援金の活用案

補助タイプ1 (100万円以内) : 推薦+審査協力+調査研究WGの調査協力(ネットワーク形成)

補助タイプ2 (600万円以内) : 推薦+審査協力+調査研究WGの調査協力+事業計画実施

補助タイプ3 (100万円以内) : 公募+調査研究WGの調査協力(ネットワーク形成)

※自団体の審査にはかかわらない。

(ウ) 基金造成ワーキンググループ活動報告

- ・先行した動き

本事業を推進するために助成金申請を行い、現状は以下のとおりである。

確定分

① 生活クラブ共済連からの2017年度分助成金: 100万円

② 2017年度「パルシステム地域づくり基金」: 20万円

申請中

① 三菱財団

② 福祉医療機構

不採択

① 日本財団

- ・WGのゴール

基金造成WGでファンドレイジングの戦略を策定する。

- ・WGのプロセス

各WG・事務局への予算案の策定依頼

各WG・事務局からの予算案の提示

予算案を踏まえた、目標金額の設定

ファンドレイジング戦略策定

第3回運営委員会への提案

事務局中心に、実行を行う。

- ・先行事例ヒアリング: 「こども・若者未来基金」

2017年度先行して「こども・若者未来基金」(千葉)で組合員カンパと助成を行ったNPO法人ちばこどもおうえんだん湯浅様、久保様に2018年2月20日ヒアリングを行った。こども・若者未来基金は以下のスケジュールで活動を行った。

運営委員会発足	2016年6月
キックオフ	2017年2月(寄付スタート。キャンペーン月間は11月。)
実務者会議	2017年5月(パルシステム千葉、生活クラブ、なのはな生協等) 雛形作成、キャンペーン告知は1か月前
公募	2017年9月~11月
シンポジウム	2017年10月(柏と船橋で開催。80人程度参加。)
寄付金	約900万円(事務経費15%)
審査	1人20分。(第1次募集は6人9件が助成を受ける。)

- ・首都圏若者サポートネットワーク2018年度基金造成スケジュール(案)

千葉での先行事例を踏まえワーキングで議論し、2018年度下記のスケジュールで実施予定。

実務者会議	2018年4月(組合員カンパをしてくれる団体から実務者が出席)
-------	---------------------------------

シンポジウム	2018年9月(埼玉、東京、神奈川で開催。)
公募	2018年8月～10月
キャンペーン月間	2018年10月
寄付金	2000万円(事務経費15%)

・事務局からのファンドレイジング戦略案

名称：首都圏若者サポート基金(※千葉はこども・若者未来基金)

活動内容

- ・組合員カンパ
- ・クラウドファンディング
(運営委員がファンドレイザー、運営委員の所属団体・寄付を受ける団体から返礼品を募集)
- ・運営委員会メンバーの主催会合でのカンパ活動
- ・チャリティイベント(加藤登紀子編集長コンサート)
- ・チャリティ自販機(伊藤園)

・目標額：2000万円

組合員カンパ	1000万円
その他の寄付	1000万円

(エ) 就労・キャリア支援ワーキンググループ活動報告

- ・パルシステム地域づくり基金の採択
使途指定：海外の先進事例等の調査

・就労キャリア支援ワーキングでの検討状況

首都圏若者サポートネットワークの関係団体において就労訓練やインターンシップ等の受け入れ可能性をうかがい、委員が所属する児童養護施設、自立援助ホーム、アフターケア事業などで就労やインターンシップを希望している人がいた際にマッチングを可能な範囲で行っていく。

・来年度の想定

①海外事例調査

首都圏若者サポートネットワーク関係者による就労支援スキーム作りとマッチング

②連携が想定されるスキーム

- ・ブリッジフォースマイル ライテミル
- ・くらしサポートウィズ 協同組合インターンシップ

※必要経費はスキーム作りの委託料と就労支援の利用者向けにその期間アルバイト等で働けない分を想定(1人につき3万円程度)

2) 広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーに参画

「こども食堂がその地域でどんな役割の場所になっていけたらいいのか」「地域の人たちがこども食堂にどんなふうに関わっていけるんだろう」こうしたこども食堂の理念やあり方について、講演会やシンポジウムなどを通して考えていくために、実行委員会を立ち上げ全国47都道府県をつなぐツアーを赤い羽根福祉基金の助成を受けて実施。当団体からは副実行委員長として平野常務、実行委員として池本専務が参画している。地域の実情に根差した「こども食堂のあり方」について、多様な立場の方々をお招きしながら話し合っていく。



- 【岡山県】 2017年4月29日(土) 10:00~16:00
子どもを主体とした地域づくりへのおかやまネットワークフォーラム
場所：川崎医療福祉大学講義棟 主催：岡山子どもの貧困対策ネットワーク会議
- 【高知県】 2017年5月7日(日) 9:00~16:00
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin高知
場所：高知県立ふくし交流プラザ 2階多目的ホールほか
主催：広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin高知実行委員会
- 【熊本県】 2017年5月14日(日) 10:00~16:40
熊本地震から1年、子どもたちの今・未来
場所：熊本学園大学 14号館 1F 高橋守雄記念ホール他
主催：子どもから地域に広がれネットワーク
- 【長野県】 2017年5月27日(土) 14:00~17:00
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin長野
場所：長野市若里市民文化ホール 会議室
主催：広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー in 長野 実行委員会
- 【宮城県】 2017年6月8日(木) 13:30~16:30
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーinみやぎ
場所：宮城県庁2階講堂 主催：広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー in みやぎ 実行委員会
- 【福島県】 2017年8月11日(金) 13:30~16:00
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー ふくしまのこども食堂ネットワーク設立記念
場所：ビックパレットふくしま 中研修室B 主催：ふくしまのこども食堂ネットワーク
- 【奈良県】 2017年8月26日(日) 10:00~16:15
なら小地域福祉活動サミット2017
場所：奈良県社会福祉総合センター 主催：奈良県社会福祉協議会
- 【広島県】 2017年8月26日(土) 13:00~16:30
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin広島(福山会場)
場所：福山市ものづくり交流館スカイホール 主催：ひろしまこども夢財団
- 【広島県】 2017年8月27日(日) 13:00~16:30
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin広島(広島会場)
場所：広島市総合福祉センターホール 主催：ひろしまこども夢財団
- 【兵庫県】 2017年9月2日(土) 13:00~16:30
「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーinひょうご
場所：ひょうご共済会館ツツジ 主催：ひょうご子どもカフェ

【群馬県】 2017年9月10日(日) 13:00~16:00

「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin ぐんま

場所：群馬県社会福祉総合センター8F ホール

主催：「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin ぐんま実行委員会

【石川県】 2017年9月17日(日) 10:00~17:00

「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin いしかわ

場所：石川県地場産業振興センター 大ホール 主催：NPO 法人 ささえる絆ネットワーク北陸

【北海道道北】 2017年10月8日(日) 10:00~16:00(予定)

「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 旭川・道北(旭川会場)

場所：大雪クリスタルホール 主催：旭川おとな食堂

【秋田県】 2017年10月10日(火) 12:30~16:00

みんなの「居場所づくり」を考える 県民フォーラム

広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー in 秋田

場所：ホテルメトロポリタン秋田 主催：秋田県、秋田県社会福祉協議会

【鹿児島県】 2017年10月15日(日) 13:00~17:00

「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアーin かがしま

場所：ホテルウェルビューかごしま

主催：「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin かがしま実行委員会

【山形県】 2017年10月20日(金) 13:10~16:00

山形県子どもの貧困対策シンポジウム~地域から広がる子どもの居場所づくり~

広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin 山形

場所：山形県生涯学習センター 遊学館ホール 主催：山形県(あしながプロジェクトチーム)

【神奈川県】 2017年10月27日(金) 13:30~16:00

広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin かながわ

場所：はまぎんホールヴィアマーレ 主催：神奈川県 横浜市

【大阪府】 2017年11月19日(日) 13:00~16:30

子ども食堂サミット in 大阪 場所：大阪ビジネスパーク 円形ホール 主催：大阪府

【長崎県】 2017年12月3日(金) 13:00~16:00

場所：長崎大学 文教スカイホール

主催：広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin 長崎実行委員会 長崎県青少年育成県民会議

【東京都】 2017年12月26日(火) 13:00~16:00

「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー 中間報告会

場所：立教大学池袋キャンパス マキムホール MB01 教室

主催：「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー実行委員会共催：立教大学コミュニティ福祉学部

【埼玉県】 2018年1月19日(金) 10:30~15:30

共生・共助つながりづくりフォーラム

「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 埼玉

場所：埼玉会館 大ホール他 主催：埼玉県、社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会、一般財団法人埼玉

県民生委員・児童委員協議会、「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーin 埼玉実行委員会

【千葉県】 2018年1月27日(土) 13:15~16:30

広がれ！こども応援のわ！つくろう！こども応援ネットワーク

場所：船橋市中央公民館 主催：「広がれ、こども応援の輪！」実行委員会

2. 社会的経済セクターの協働（地域に根差した政策づくりや具体的参加の促進）

1) NPOの基盤強化（中間支援NPOへのノウハウ・情報の提供）

①人材育成（コミュニティ・オーガナイズング関連のスキルを学ぶ研修等の実施）

ハーバード大学マーシャルガンツ博士が開発した市民一人一人のリーダーシップを育む「コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ」を協同組合、福祉関係者、NPO等社会活動に取り組むセクターを超えた人材向けに実施。

・研修・ワークショップ開催一覧

2017年

5月20日、21日 東京都 25歳から35歳までの若手社会人向け研修 主催：社会創発塾



7月7日、8日 静岡県三島市
労働者福祉東部ブロック協議会「第11期福祉リーダー塾」



12月17日、18日 福岡県久留米市

平成29年度厚生労働省「保健福祉分野における民間活力を活用した社会的事業の開発・普及のための環境整備事業」



2018年

2月15日 茨城県水戸市「コミュニティオーガナイズingに学ぶ地域の力を巻き込むリーダーシップ」主催：NPO法人セカンドリーグ茨城 共催：ビレッジ310



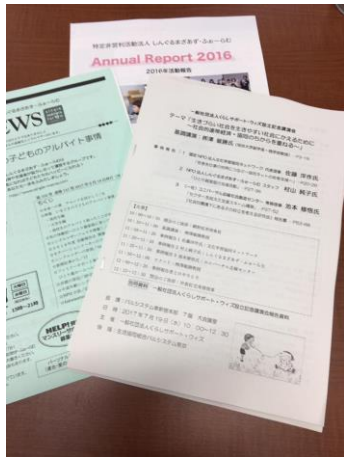
3月2日、4日 東京都 「子ども食堂はまちのプラットフォーム！になるためのお泊り合宿」主催 NPO法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク



②講演・シンポジウムパネリスト・コメンテーターとしての参加

2017年

7月19日一般社団法人くらしサポートウィズ設立記念講演会 「生きづらい社会を生きやすい社会にかえるために セクターを超えた支援スキーム構築の事例報告」



11月24日 福岡市東区小学校PTA連合会「地域に開かれた学校をつくるコミュニティ・オーガナイズィング」



12月9日 平成29年度 日本地域福祉学会関東甲信越静部会研究集会やまなしボランティア・絆フォーラム2017

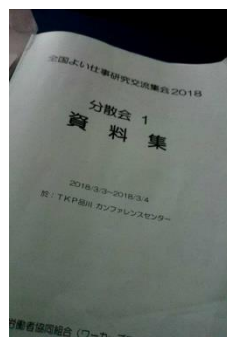


2018年

2月12日 せたがや区民子ども子育て会議「第3回せたがや子ども・子育て楽(学)会」



3月4日 ワークスコープ全国よい仕事研究交流集会2017 第1分散会コメンテーター



3月7日古賀伸明さんの歩みから学び熟議する会

会場 連合総研会議室（千代田区九段南 2-3-14 靖国九段南ビル 5F）

目的：古賀代表の体験をある程度時間の制限なく伺い熟議することで、これから社会活動に取り組む人材の飛躍のきっかけの機会とする。また、労働組合、生活協同組合、労働者協同組合、NPO、社会的企業、企業 CSR などセクターを超えて若手がつながるきっかけとする。



③政策提言プラットフォームの運営

本法人が取り組む社会課題（子どもの貧困、震災復興等）の声を集め、パブリックな場で政府と交渉する場の設定を目指す。

ア. 災害支援部会 平成 29 年度 「広域的地域間共助」推進協働型災害訓練

東日本大震災においては、都市と農村の交流連携や姉妹都市・友好都市連携など、地域活性化や地域振興を目的とした遠隔地との連携・交流の取組がきっかけとなって被災地の支援活動に発展するなど、平時に構築した連携の枠組みが有事の助け合いにおいて効果的に機能を発揮した。本法人理事団体の NPO 埼玉ネットとすぎと SOHO クラブ・は行政間、行政と NPO・市民団体（以下 NPO 等という）との連携を支援し多数の広域的な地域間の相互支援（共助）活動を進めてきた。このような取組を有効に機能させるために、常日頃から連携する地域同士が「顔の見える関係」づくりを継続的に進めておくとともに、いざというときの手厚い支援に繋げるために、行政関係者のみならず、地域住民や企業、NPO 等など幅広い関係者を巻き込み、多様な階層が重層的な連携体制を構築することが必要と考え協働型災害訓練を行った。

日時：平成 30 年 2 月 2・3 日（金・土）

場所：彩の国いきいきセンター・すぎとピア

事業主体：埼玉県杉戸町、福島県富岡町・川内村、NPO 埼玉ネット、すぎと SOHO クラブ

参加者数：1 日目約 150 名、2 日約 70 名



③情報発信の強化

ユニバーサルな志縁社会を推進する先駆的事例をホームページ、メールマガジン、インターネット中継などを活用し、全国の中間支援 NPO を中心に発信した。

メールマガジン：

- ・通常版：4月12日、5月2日、6月1日、7月4日、8月10日、9月1日、10月2日、11月1日、12月1日、1月17日、2月1日
- ・臨時号：2月15日（全国よい仕事研究交流集会 2018、NPO 予算ヒアリング）

イベント：

- ・第87回メーデー中央大会：4月29日（土・祝）
- ・東京ベジフードフェスタ 2017：10月21日（土）22日（日）（開催協力）



東京ベジフードフェスタ 2017（代々木公園）



第87回メーデー中央大会（代々木公園）

動画配信：

- ・埼玉 NPO 放送局「キミに、つながってテレビ！」事務局（小山田）が MC 担当



メディア掲載：

日本医療企画「地域介護経営」1月号掲載



④支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO 支援ツールの販売等を継続して行う。

ア. 専門家による起業・運営相談（会計・税務）

2017 年

4 月 14 日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）

4 月 14 日 国際文化青年交換連盟日本委員会（ICYE ジャパン）（会計相談）

6 月 6 日 まちづくりセンター伊東（伊豆便利堂）（会計相談）

11 月 16 日 Kaiketsu!伊豆便利堂（まちづくりセンター伊東）（会計相談）

2018 年

2 月 9 日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）

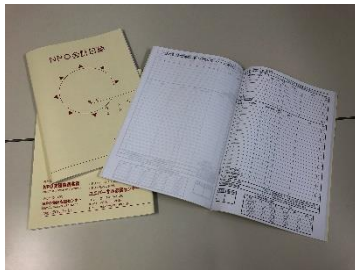
イ. 支援ツールの普及（NPO 活動保険、会計ソフトウェア等の販売）

NPO 活動保険（保険代行社、あいおいニッセイ同和損害保険）

N-books 紹介（問い合わせ対応）

チャリティ自販機の設置。（生活科学運営、生活クラブ風の村等）

会計日誌等ツールの販売・改定（会計日誌 平成 29 年度は 738 部※3 月 30 日現在）



ウ. NPO 支援東京会議の事務局運営

NPO 支援東京会議（会計士、税理士等の専門家ネットワーク）の事務局。

・NPO 支援東京会議 4 月定例セミナー

テーマ「NPO の業務チェックリスト」

日時 2017 年 4 月 14 日（金）18:30 から 20:30

場所 神明いきいきプラザ集会室A

セミナー講師 中川直政さん

（弁護士、NPO のための弁護士ネットワーク 理事）

参加者 12 名



・NPO 支援東京会議 6 月定例セミナー

テーマ「休眠預金活用による新たな資金循環の創出について

～休眠預金活用と社会的インパクト評価・投資の最新動向～」

日時 2017 年 6 月 6 日（火）18:30 から 20:30

場所 神明いきいきプラザ集会室A

セミナー講師 鴨崎貴泰（かもざき よしひろ）さん

（認定特定非営利活動法人日本ファンディング協会 事務局長

／社会的インパクトセンター センター長）

参加者 11 名



・税理士・公認会計士のためのNPO実務家研修

1日目

日時 2017年9月8日(金) 10:30から18:00

場所 田町交通会館5階大会議室

内容 NPO法人制度の概要と特色/NPO法人の実情と、専門家がNPOを支援するうえでの注意点/NPO法人会計基準/NPOの活動紹介(1)~(2)(税理士とNPOの関わり方について)/認定NPO法人制度

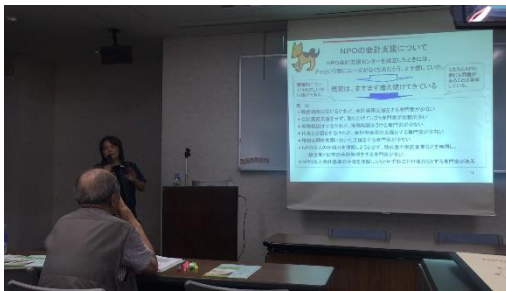


2日目

日時 2017年9月9日(土) 9:30から17:00

場所 ビジョンセンター田町406会議室

内容 NPO法人税(収益事業課税を中心として)/NPOに特有な消費税/NPOの活動紹介(3)/福祉系NPO特有の会計・税務(障害者系NPOを中心として)/NPOにおける理事の責任と監事の役割



・NPO支援東京会議11月定例セミナー

テーマ「NPO法人会計基準改正案の解説」

日時 2017年11月16日(木) 18:30から20:30

場所 神明いきいきプラザ集会室B

セミナー講師 脇坂 誠也さん

(認定NPO法人NPO会計税務専門家ネットワーク理事長、NPO法人会計基準協議会事務局として受取寄付金のQ&Aの原案を担当)

参加者 14名



・NPO支援東京会議2月定例セミナー

テーマ「NPO法人会計力検定テキストななめ読み勉強会」

日時 2018年2月9日(金) 18:30から20:30

場所 神明いきいきプラザ集会室A

セミナー講師 馬場利明さん

(税理士、特定社会保険労務士、NPO支援東京会議会長)

参加者 21名



・第1回NPO法人会計力検定 入門編・基本I編

日時 2018年2月25日(日)

場所 東京都・神戸市・尼崎市の3箇所で同時開催

入門編

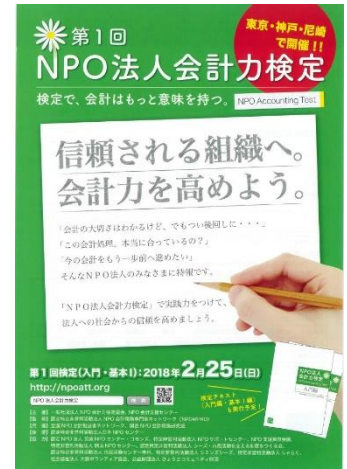
時間 13:15から14:15(60分)

内容 NPO法の基本理解、NPO会計に関わる際に必要とされる初歩的な知識。

基本I編

時間 15:00から16:30(90分)

内容 スタッフを雇用せず、単発の事業を比較的活発に実施するNPO法人において、会計に携わる人が基本的に知っておくべき、「簿記3級レベル+会計実務力」の実践的知識。



エ. 西武信金環境・街づくり活動助成金における団体の推薦

・第5回西武街づくり活動助成金

期間:平成30年1月から6月(概ね6ヶ月)

活動目標:各種支援ツールのPRをホームページ等で実施し利用団体の倍増を目指す。

- ・NPO法人 産業技術活用センター
- ・一般社団法人 マツリズム
- ・NPO法人 じぶん未来クラブ
- ・世田谷コミュニティ財団設立準備会特定非営利活動法人 ゆったり～の

以上8団体の申請の審査を完了し上記4団体が最終選考。贈呈式を2月19日(月)に開催予定。

オ. 夏の特別志縁セミナーを会員向けに開催(一般は有料参加)

日時 2017年7月28日(金) 18:30から20:30

場所 ユニバーサル志縁センター会議スペース(港区新橋4-24-10 アソルティ新橋502)

テーマ 「NPO法人と一般社団法人の違い」

セミナー講師 山之内克行さん(ユニバーサル志縁センターインストラクター)

参加者 7人



3. ユニバーサルな地域社会づくり支援

(誰一人として孤立しない・させない地域社会づくり)

1) 志縁をつなぐ文化祭

(アーティストと連携し文化芸術活動を通じて、地域のつながりをつくり、イベント開催して地域のNPO活動を支援)

・命結～ぬちゆい～トーク&ライブの実施

震災直後から精力的に被災地へ支援活動を行ってきた会長・加藤登紀子が被災地での経験をもとに作成した楽曲「命結～ぬちゆい～」。この楽曲をより多くの人たちに聞いてもらうことで地域を元気づけていくことはできないか検討し、「私の未来、私たちの明日、地域コミュニティの次の時代を切り開き、人と人、人と自然の活力を取りもどすためのイベント」として「加藤登紀子 命結～ぬちゆい～トークライブ」を企画。(今年度の開催はなし。2019年2月16日に埼玉県北本市文化センターにて開催予定)

2) 第4回西武街づくり活動助成金団体支援

西武信用金庫が、地域に密着し地域の方と一緒に地域社会の課題解決に取り組むNPO団体等に助成を行い、ユニバーサル志縁センターが1次審査を行った、NPO法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパンによる「第2回オーガナイザー祭」とNPO法人pipes of pieceによる「みんなで読む源氏物語・百人一首・平家物語」の開催支援を行った。



第2回オーガナイザー祭



みんなで読む源氏物語・百人一首・平家物語

3) 地域サポーター養成支援

NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(通称ナルク)が主催する、港区・地域サポーター養成講座と東京フォーラムの開催支援を行った。

第1回1日目

日時 2017年11月4日(土) 10:00から16:00

会場 きらきら新橋 4F 会議室(港区新橋 6-4-2)

研修内容 全国(市区町村)の生活支援総合事業(講師:田中尚輝(市民協代表)) / 港区の相互支援・訪問サービス、ナルクの活動(講師:筑摩孝雄(ナルク東京拠点代表)) / 介護予防の演習 ほか



第1回2日目

日時 2017年11月11日(土) 10:00から16:00

会場 きらきら新橋 4F 会議室 (港区新橋 6-4-2)

研修内容 介護者のサポート (講師:佐藤典子(アラジン))
／大災害発生時の助け合い (講師:松尾道夫(NPO 埼玉ネット代表)) / 介護予防の演習 ほか



第2回1日目

日時 2017年11月25日(土) 10:00から16:00

会場 きらきら新橋 4F 会議室 (港区新橋 6-4-2)

研修内容 全国(市区町村)の生活支援総合事業 (講師:田中尚輝(市民協代表)) / 港区の相互支援・訪問サービス、ナルクの活動 (講師:河口博行(ナルク副会長)) / 介護予防の演習 ほか



第2回2日目

日時 2017年12月2日(土) 10:00から16:00

会場 きらきら新橋 4F 会議室 (港区新橋 6-4-2)

研修内容 介護者のサポート (講師:河相ありみ(アラジン)) / 大災害発生時の助け合い (講師:豊島亮介(NPO 埼玉ネット事務局長)) / 介護予防の演習 ほか



2018 ナルク東京フォーラム～セカンドライフの上手な設計～

日時 2018年1月27日(土) 13:00から16:45

会場 田町交通会館 6階ホール (港区芝浦 3-2-22)

プログラム ナルクの活動報告と挨拶(神野毅会長) / 基調講演「セカンドライフの上手な設計」(秋山弘子(東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授)) / 利用者と共に介護予防 ほか



4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援

(身体的、精神的、社会的理由によって働きにくさを抱えている人とも一緒に、誰にとっても働きやすい職場づくり)

1) ユニバーサル就労システムの推進に向けたノウハウの提供
本年度は下記のイベント等でユニバーサル就労について説明した。

2017年

7月7日、8日 静岡県三島市

労働者福祉東部ブロック協議会「第11期福祉リーダー塾」

7月19日一般社団法人くらしサポートウィズ設立記念講演会 「生きづらい社会を生きやすい社会にかえるために セクターを超えた支援スキーム構築の事例報告」

11月24日 福岡市東区小学校PTA連合会「地域に開かれた学校をつくるコミュニティ・オーガナイズング」

12月9日 平成29年度 日本地域福祉学会関東甲信越静岡部会研究集会やまなしボランティア・絆フォーラム2017

2) ユニバーサル志縁社会を推進するための調査、研究、政策提案

①平成29年度厚生労働省社会福祉推進事業「自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業」

平成28年度自立相談支援事業の支援対象者の状態を最も適切に把握する評価モデル検討と事業実施形態(1法人一括と共同事業体)ごとの成果比較を行うために、厚生労働省「生活困窮者自立支援制度の新たな評価指標による調査」、社会福祉法人生活クラブ風の村印旛事業所作成「生活困窮者自立支援事業新アセスメント・モニタリング」、平成27年社会福祉推進事業を活用して作成した「就労準備支援事業評価ガイドラインを使用した評価」の3つの調査の比較検討を行った。

今年度はその結果によって抽出された事業改善や事業実施形態以外の事業成果を高める要素の抽出等の課題に基づき、自立相談支援事業の評価ガイドライン作成と実証のための事前事後アンケート・ヒアリング等を行い、事業改善に資する評価ガイドライン導入マニュアルを作成する。

【委員】敬称略

池田 徹 一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター、
鴨崎貴康 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会、
川上葉子 社会福祉法人 生活クラブ、
新藤健太 群馬医療福祉大学 社会福祉学部 助教
田嶋康利 日本労働者協同組合連合会、
谷口仁史 特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス、
西岡正次 大阪地域職業訓練センター A' ワーク創造館、
濱政宏司 豊中市市民協働部くらし支援課 主幹
源由理子 明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 教授

・第1回委員会

日時 2017年9月26日(火)

会場 TKP 新橋汐留ビジネスセンター ミーティングルーム103(港区新橋4-24-8 2東洋海事ビル)

内容 自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業の説明(鴨崎委員)、自立相談支援事業における就労支援事業ロジック・モデル作成ワークショップ ほか



・第2回委員会

日時 2018年1月26日(木)

会場 TKP新橋汐留ビジネスセンター ミーティングルーム202(港区新橋4-24-8 2東洋海事ビル)

内容 調査内容と進捗について/ロジックモデルについて/第1弾調査結果報告/第2弾調査概要(鴨崎委員)、今後のスケジュール ほか



・第3回委員会

日時 2018年3月20日(火) 12:00-14:00

会場 TKP新橋カンファレンスセンターミーティングルーム6F(港区西新橋1-15-1 大手町建物田村町ビル)

内容 第2弾調査結果報告 ほか



・シンポジウム

「事業成果を高める秘訣を徹底解剖！」

～自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業報告会～

日時 2018年3月20日(火) 15:00-17:30(予定)

会場 TKP新橋カンファレンスセンターホールA1(港区西新橋1-15-1 大手町建物田村町ビル)



3/20 (水) 15:00 ~ (開催 14:30 ~)
 会場: TKPカンファレンスセンターホール 1A

平成29年度調査結果を踏まえ、各事業における自立相談支援事業の事業改善にも資する評価ガイドライン策定を行う。また、評価ガイドラインの検証をアンケート・ヒアリングを通じて行い、事業実施開始以降の事業成果を高める事業の抽出を行う。

事業成果を高める秘訣を徹底解剖!
 ~自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業報告会~

参加無料

平成28年度調査では、事業成果を高める事業について、評価結果の検証によりいくつかの発見や新たな仮説が確認できました。しかし、事業者が実際に事業の参考にできるような具体的な事業の抽出には課題が残り、平成29年度では、この課題を解決することを目的に調査を実施してきました。

平成28年度調査で実施したアウトカム評価に加え、プロセス評価を行うために、委員を中心とした評価ワークショップと自立相談支援事業で就労支援事業を行なっている事業者へのヒアリングを実施し、事業成果（アウトカム）を高める事業の抽出を行い、効果モデル（案）を構築しました。

これをもとに全国の事業所（自立相談支援機関：1,317箇所）においてアンケート調査（第1弾調査）を実施し（調査期間：2017年12月16日~2018年1月12日）、効果的援助策と事業成果との相関を分析し、効果的援助策の視点の違い、事業所と担い手事業者を特定し、更にこのデータをもとに第2弾調査を実施（上位、下位各20事業所、1事業所5名=200名分）し、効果的援助策と相関の変化（アウトカム）の関係性を検証しました。

最終データをもとに、事業者が実際の事業において成果を高めるために参考にできるようなガイドラインおよび評価モデル（仮定版）を作成しましたので、ご報告させていただければと思います。

※シンポジウム終了後に懇話会も開催予定です。

お問い合わせ・お申込み：一般社団法人ユニバーサル志縁センター
 〒105-0004 東京都港区新橋4-24-10 アンルティ新橋ビル5F
 TEL 03-6450-1820 FAX 03-6450-1821 E-mail info@u-shien.jp

お申込みは WEB から → <http://www.u-shien.jp/>

開催概要

平成28年度に行った3つの調査の比較検討の結果を踏まえ、各事業における自立相談支援事業の事業改善にも資する評価ガイドライン策定を行う。また、評価ガイドラインの検証をアンケート・ヒアリングを通じて行い、事業実施開始以降の事業成果を高める事業の抽出を行う。

プログラム

15:00 主催者挨拶 池田 隆（一般社団法人ユニバーサル志縁センター 代表理事）

15:05 基調講演「生活困窮者自立支援制度の今後の展望」
 講師：厚生労働省社会援護局生活困窮者自立支援室

15:20 調査報告
 「調査結果報告」
 報告者： 菊嶋 貴幸（特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 事務局長）
 新藤 健太（群馬県立総合大学 社会福祉学部 助教授）

16:00 パネルディスカッション「これからの生活困窮者自立支援制度のあり方について」
 コーディネーター：酒田 隆（一般社団法人ユニバーサル志縁センター 代表理事）
 パネリスト（五十音順）

- ・ 菊嶋 貴幸（特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 事務局長）
- ・ 川上 真子（社会福祉法人生活クラブ系の村生活困窮者自立支援事業所）
- ・ 谷口 仁志（特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事）
- ・ 西岡 正次（N-ワーク創造館 大阪地域協働基調センター 就労支援部長）

17:30 終了

対象

一般、自立相談支援または予定している事業者、行政関係者

マップ・アクセス

TKPカンファレンスセンター
 東京都港区新橋1-15-1 大手町駅前ビルビル

アクセス

- 都営三田線内幸町駅 A3 北口徒歩 1分
- 都営丸の内線新橋駅 徒歩 3分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分
- 山手線 大塚駅 徒歩 10分

3) ユニバーサル農業フェスタの広報を実施

期間：2017年4月から12月

ア. ユニバーサル農業フェスタ広報

ユニバーサル農業フェスタ実行委員会主催で「ちばユニバーサル農業フェスタ」が千葉県四街道で開催され、本団体は東京ベジフードフェスタ等で広報を実施。



東京ベジフードフェスタ 2017 (代々木公園)

4. 東日本大震災・熊本地震復興活動支援

(NPO・市民団体等が取り組む東日本大震災復興活動を支援)

1) 東日本大震災復興支援活動についての意見交換の場の設定

市民キャビネット災害支援部会が中心に取り組む平成29年度「広域的地域間共助」推進協働型災害訓練等で復興支援活動の報告や防災訓練等を実施。

また東日本大震災支援全国ネットワークの世話団体も務め、池本専務が5カ年検証委員会の委員として参画。

9月7日第14回現地会議 in 岩手「いま、このまちで、子どもたちに何を伝えるべきか」
陸前高田市 53名



11月26日検証ワークショップ「東日本大震災・市民セクターの果たした役割とこれからの展開」



2月1日現地会議 in 東京



2月2日現地会議 in 大阪



「岩手・宮城・福島のいま」を伝え、企業・助成団体・行政・メディアと被災地域のニーズをつなぐフリーペーパー「JCN REPORT」のVol. 8（2018年1月発行）に池本専務が寄稿しました。



2) IT 企業の新入社員を福島へ研修のコーディネート

昨年に引き続き、2017年6月1日(木)、2日(金)に日本ヒューレット・パカード株式会社の新入社員の有志による東北復興支援活動をコーディネートした。

3) 公民館、仮設住宅等でのコミュニティ活動支援事業

ア. 熊本地震支援

2016年4月に発災した熊本・大分震災を受けて熊本市をはじめとした行政、NPO、企業等と連携し、避難所、仮設住宅等の支援活動を実施した。また2011年5月から実施している復興支援ITボランティア派遣で構築した関係性をベースに、地域防災教育のシステムづくりやコミュニティの活性化への支援を行い熊本県においてICTを活用した支援活動を行う『熊本復興ICT支援チーム リバイブくまもと』設立に協力団体として関わり、来年度熊本市と日本マイクロソフト株式会社が提携する地方自治体におけるデジタルトランスフォーメーションによる働き方改革推進においてNPOとして参画予定。

イ. 東日本大震災復興支援

平成29年度福島県ふるさとふくしま交流・相談支援事業(県外避難者支援事業)の活動支援を行った(川内村セプテンバーコンサート)

協力 特定非営利活動法人加須ふれあいセンター、特定非営利活動法人川内村NPO協働センター

内容 音楽ライブ、和太鼓、お囃子、獅子舞

日程

- ・9/22(金) 8:00 加須ふれあいセンター出発福島視察
- ・9/23(土) 13:00 川内村営総合商業施設「YO-TASHI」駐車場特設会場



3) 地域における防災コミュニティ醸成支援

慶應義塾大学SFC研究所防災情報社会デザインコンソーシアムと連携し、熊本地震に初動における支援(くまもとRネット)とその社会的インパクト評価について、慶應義塾大学オープンリサーチフォーラムにおいて11月22日、23日発表した。発表概要は以下の通り。

くまもとRネットについて

熊本県熊本地方を震源として、2016年4月14日夜および4月16日未明の2回にわたり、震度7を観測する地震が発生し最大避難者の数は、約11万人(2016年4月17日8時時点)にもものぼり、日本政府側においても早急な対応準備が進められた中で、今回初の試みである政府機関からのプッシュ型支援物資の供給が実施された。しかし、物資拠点の物流環境の整備や運用準備が間に合わず、現場では、受け入れた支援物資のハンドリングに苦慮した。また、本震発災直後の交通網の寸断により、物資拠点では支援物資の受け入れ日時を正確に把握することができず、情報の混乱が発生した。支援者の間では、関係者間とのネットを介した情報共有の必要性が感じられていた。その中で、熊本市役所は、日本マイクロソフトと支援連携NPOより、東日本大震災・広島土砂災害における被災地での活用事例と経験に関する提案を受け、避難所運営担当者、物資拠点の職員、そして市役所との情報共有と情報活用を行うためのクラウドサービスを利用したネットワークシステムを導入した。このネットワークシステムを「くまもとRねっと(以下Rねっと)」(Restoration(復旧)& Reconstruction(復興))と呼称することになる。熊本市役所では、市役所の端末は、元の行政拠点から移動することが出来ず、又、各避難所では、行政ネットワークの利用が出来なかった為クラウドサービスを利用するためのモバイル端末も民間企業から貸与を受け、モバイル端末の利用環境設定と各避難所への初期展開にあたっては、地元ICT関連NPO等からの支援と連携した。

くまもとRねっと事業評価について

Rねっと事業が生み出した社会的インパクトを明らかにするとともに、今後の被災者支援または次期災害に備えるための事業改善に資する知見を得ることを目的とした事業評価を行った。

評価方法

本評価は、社会的インパクト評価の手法を用いて行った。

ロジックモデルについて

本事業の成果を評価するために、事業の受益者である「①区役所・本庁舎および避難所担当の熊本市役所職員」「②避難所を利用した熊本市民」が事業を通じて得るアウトカム(成果)、そして、それにいたる活動および変化の因果関係を「ロジックモデル」としてまとめた。ロジックモデル作成にあたっては、既存の報告書等の調査および関係者へのヒアリングをもとに作成した。

評価実行について

本評価では、アンケート調査や既存の事業報告書およびヒアリング等によりデータ収集を行った。なお、アンケート調査については、熊本市情報政策課の協力のもと、市役所職員へ直接アンケート調査を実施した。各調査の概要は以下のとおりである。

- ・既存資料調査
- ・アンケート調査

実施期間：2017年2月9日～2月22日

アンケート実施者：熊本市情報政策課(担当：高橋征二氏)

実施方法：熊本市役所内のアンケートシステムで実施

対象：熊本市役所全職員

回答数（有効回答）：126名

・ヒアリング調査

行政：熊本市情報政策課（2016年11月18日、2017年2月28日、12月11日）

NPO：リバイブくまもと（2016年11月18日）

支援企業：日本マイクロソフト株式会社（2017年2月28日、4月6日）

分析結果

Rねっと導入により、中期アウトカムの3項目「避難所運営・管理の改善」「避難所の課題・ニーズの共有の促進」「支援物資・生活再建支援メニューの提供促進」に関して回答者の概ね半数以上が「導入前と比べて改善された」と回答していることから本事業の目標とする社会的インパクトが生み出されていたと評価できる。また、特に「避難所間の細かな数値（物資、人数等）が可視化」および「避難所での各種対応方法の情報の共有」など避難所間の情報共有にRねっとは有効だったことが分かる。また、このことは、Rねっとを使用した感想を聞いたアンケート結果からも同様にわかる。

社会的インパクト評価の観点

本事業の成果として以下の項目が定量的・定性的な調査結果より明らかになった。

- ・市役所および避難所間の情報伝達・共有の円滑化（初期アウトカム）
- ・避難所運営・管理の改善（中期アウトカム）
- ・避難所の課題・ニーズの共有の促進（中期アウトカム）
- ・支援物資・生活再建支援メニューの提供促進（中期アウトカム）

本事業において目標とする社会的インパクトが生み出された要因

- ・電話やFAXでの情報共有インフラしかなかった中、インターネット上のクラウドを活用したRねっとが効果を発揮した。
- ・Rねっとは、硬直的（作り込んだ）システムではなく、現場のニーズに応じて自由な使い方ができることを優先して設計された。そのことが、結果として避難所での活用を推進したと考える。
- ・現場への事前説明が不十分な中、Rねっとの導入が短期間に進んだ要因として、情報管理課の桐原氏、高橋氏の市役所職員との信頼関係があったと考える。
- ・情報管理課の高橋氏と日本マイクロソフト社の担当者との震災前からの信頼関係と担当者の広島土砂災害等の経験が、被災地の現場ニーズに対応したシステムの早期導入に寄与したことが推察される。
- ・今回コーディネートされた支援が、情報システムの導入のみならず、経験・ノウハウと人的ネットワークがパッケージ化された支援として、初めて大きな災害を経験し、対応を余儀なくされた熊本市役所のニーズに合致していた。

4) 東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト

2011年3月11日に発生しました東日本大震災の長期にわたる復興に向けた、「支援者への支援」を行うため継続的な活動を行う NPO を支援するという課題に取り組む。中長期的な復興の支援をするために、被災地の NPO をはじめとし復興に貢献する NPO の活動を支援していく。

2017年度は集まった基金を現地の4団体に支援金として分配し、下記のような活動の費用として活用した。

1. NPO 法人 まちの寄り合い所 うめばたけ

(宮城県石巻市)

- ・ガーデンベンチ、ガーデンテーブル & チェア(5点セット)

会員や近隣の皆さんが利用している。



2. NPO 法人 ふれあいステーション・あい

(岩手県宮古市)

- ・子育て支援事業として行う交流会で使用する座卓購入費
- ・照明器具増設工事費

子育て支援事業として行う交流会で座卓を使用するが、これまでは他団体から借用していたので購入。



3. NPO 法人 住民互助福祉団体ささえ愛山元 (宮城県亶理郡山元町)

- ・旧愛広館を利用している手作り教室・パソコン教室・ワンディレストランの維持費



4. NPO 法人 のんびりすみちゃん家 (宮城県東松島市)

- ・ベランダの屋根の取り付け改修費の一部として

6. 資金状況報告

別紙

7. その他